

四 半 期 報 告 書

第97期
第3四半期

(自 2019年10月1日
至 2019年12月31日)

アイシン精機株式会社

E01593

目 次

	頁
第97期第3四半期 四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	4
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【要約四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	25
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	26
四半期レビュー報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第97期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）

【会社名】 アイシン精機株式会社

【英訳名】 AISIN SEIKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 伊勢 清貴

【本店の所在の場所】 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

【電話番号】 刈谷(0566)24-8265

【事務連絡者氏名】 経理部長 福重 友治

【最寄りの連絡場所】 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

【電話番号】 刈谷(0566)24-8265

【事務連絡者氏名】 経理部長 福重 友治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第96期 第3四半期 連結累計期間	第97期 第3四半期 連結累計期間	第96期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	3,013,398 (1,018,928)	2,871,817 (958,051)	4,043,110
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	174,756	85,815	217,486
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	83,218 (18,666)	46,671 (16,288)	110,123
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	51,322	80,198	78,941
親会社の所有者に帰属する 持分 (百万円)	1,319,102	1,384,908	1,346,902
総資産額 (百万円)	3,561,320	3,796,613	3,751,880
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	308.80 (69.27)	173.18 (60.44)	408.64
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	308.80	173.18	408.64
親会社所有者帰属持分比率 (%)	37.0	36.5	35.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	259,123	219,712	354,942
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△286,203	△194,199	△414,494
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△16,793	6,408	13,164
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	357,532	386,796	357,195

(注1) 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載していません。

(注2) 売上収益には、消費税等は含まれていません。

(注3) 上記指標は、国際会計基準(以下、「IFRS」という。)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいています。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

(アイシン・エイ・ダブリュグループ)

第1四半期連結会計期間において、アイシン・エーアイ株式会社は、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社を存続会社とする経営統合により消滅したため、第1四半期連結会計期間の期首において、連結の範囲から除外しています。これに伴い、報告セグメントの区分について、アイシン・エーアイ株式会社及びその子会社を「その他」から「アイシン・エイ・ダブリュグループ」へ変更しています。詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 4. セグメント情報」を参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の売上収益については、中国市場を中心としたオートマチックトランスミッションの販売台数の減少等により、前年同四半期（3兆133億円）に比べ4.7%減の2兆8,718億円となりました。

利益については、構造改革が着実に進捗しているものの、売上の減少や、先行投資に係る償却費の増加等により、営業利益は前年同四半期（1,614億円）に比べ52.2%減の772億円、税引前四半期利益は前年同四半期（1,747億円）に比べ50.9%減の858億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同四半期（832億円）に比べ43.9%減の466億円となりました。

また、当第3四半期連結会計期間末の資産については、前連結会計年度末（3兆7,518億円）に比べ1.2%増の3兆7,966億円となりました。負債については、前連結会計年度末（1兆8,782億円）に比べほぼ横ばいの1兆8,781億円となりました。資本については、前連結会計年度末（1兆8,736億円）に比べ2.4%増の1兆9,185億円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

① アイシン精機グループ

売上収益については、前年同四半期（1兆3,239億円）に比べ3.3%減の1兆2,796億円となりました。営業利益は前年同四半期（455億円）に比べ3.0%増の469億円となりました。

② アイシン高丘グループ

売上収益については、前年同四半期（2,375億円）に比べ0.2%増の2,380億円となりました。営業利益は前年同四半期（97億円）に比べ22.6%減の75億円となりました。

③ アイシン・エイ・ダブリュグループ

売上収益については、前年同四半期（1兆3,470億円）に比べ9.2%減の1兆2,228億円となりました。営業利益は前年同四半期（982億円）に比べ69.1%減の303億円となりました。

④ アドヴィックスグループ

売上収益については、前年同四半期（4,474億円）に比べ0.9%減の4,432億円となりました。利益については、86億円の営業損失（前年同四半期営業利益68億円）となりました。

⑤ その他

売上収益については、前年同四半期（511億円）に比べ2.1%減の501億円となりました。営業利益は前年同四半期（22億円）に比べ19.3%減の17億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、営業活動により2,197億円の増加、投資活動により1,941億円の減少、財務活動により64億円の増加、現金及び現金同等物に係る換算差額により23億円の減少の結果、当第3四半期連結会計期間末には3,867億円となり、前連結会計年度末（3,571億円）に比べ296億円（8.3%）増加となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、前年同四半期（2,591億円）に比べ394億円（15.2%）減少し、2,197億円となりました。これは、法人所得税の支払額が334億円減少し、減価償却費及び償却費が235億円増加したものの、税引前四半期利益が889億円減少したことなどによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、前年同四半期（2,862億円）に比べ920億円（32.1%）減少し、1,941億円となりました。これは、定期預金等の増減額が552億円減少したことに加え、有形固定資産の取得による支出が213億円減少したことや、投資の取得による支出が124億円減少したことなどによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は、前年同四半期（167億円の減少）に比べ232億円（138.2%）増加し、64億円となりました。これは、社債の償還による支出が99億円増加したものの、借入とその返済による収支が318億円増加したことなどによります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は、1,501億円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	700,000,000
計	700,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	294,674,634	294,674,634	東京・名古屋各証券取引所市場 第一部	単元株式数 100株
計	294,674,634	294,674,634	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	294,674	—	45,049	—	62,926

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 25,169,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 269,239,000	2,692,390	—
単元未満株式	普通株式 266,034	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	294,674,634	—	—
総株主の議決権	—	2,692,390	—

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
アイシン精機(株)	愛知県刈谷市朝日町2丁目 1番地	25,169,600	—	25,169,600	8.54
計	—	25,169,600	—	25,169,600	8.54

(注) 当第3四半期会計期間末日の自己株式数は、25,170,049株です。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

注記	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2019年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	357,195	386,796
営業債権及びその他の債権	620,630	531,136
その他の金融資産	137,433	106,009
棚卸資産	341,506	374,814
その他の流動資産	66,722	53,229
流動資産合計	1,523,488	1,451,986
非流動資産		
有形固定資産	1,479,621	1,493,372
無形資産	40,702	39,599
使用権資産	—	56,219
持分法で会計処理されている投資	107,854	111,250
その他の金融資産	449,982	495,896
繰延税金資産	120,525	127,903
その他の非流動資産	29,707	20,385
非流動資産合計	2,228,392	2,344,627
資産合計	3,751,880	3,796,613
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	850,616	712,290
社債及び借入金	86,148	78,436
リース負債	8,031	17,054
その他の金融負債	30,385	31,975
引当金	23,703	20,910
未払法人所得税等	23,198	10,479
その他の流動負債	29,664	46,012
流動負債合計	1,051,748	917,159
非流動負債		
社債及び借入金	524,193	598,764
リース負債	4,131	35,068
その他の金融負債	5,081	4,531
退職給付に係る負債	215,946	226,336
引当金	5,446	5,566
繰延税金負債	62,222	80,247
その他の非流動負債	9,482	10,435
非流動負債合計	826,504	960,952
負債合計	1,878,252	1,878,111
資本		
資本金	45,049	45,049
資本剰余金	70,043	67,070
自己株式	△115,844	△115,770
その他の資本の構成要素	121,429	155,463
利益剰余金	1,226,224	1,233,095
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,346,902	1,384,908
非支配持分	526,725	533,593
資本合計	1,873,627	1,918,502
負債及び資本合計	3,751,880	3,796,613

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上収益	5	3,013,398	2,871,817
売上原価		△2,638,268	△2,566,933
売上総利益		375,130	304,883
販売費及び一般管理費		△230,931	△234,431
その他の収益		25,824	16,866
その他の費用		△8,620	△10,116
営業利益		161,402	77,201
金融収益		14,646	14,328
金融費用		△8,775	△12,238
持分法による投資利益		7,482	6,523
税引前四半期利益		174,756	85,815
法人所得税費用		△52,864	△27,671
四半期利益		121,891	58,143
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		83,218	46,671
非支配持分		38,673	11,471
合計		121,891	58,143
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	9	308.80	173.18
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	9	308.80	173.18

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
売上収益	1,018,928	958,051
売上原価	△895,341	△854,278
売上総利益	123,587	103,772
販売費及び一般管理費	△89,588	△80,140
その他の収益	5,751	5,016
その他の費用	△1,629	△4,919
営業利益	38,120	23,728
金融収益	6,985	6,011
金融費用	△4,717	△306
持分法による投資利益	2,138	1,918
税引前四半期利益	42,527	31,352
法人所得税費用	△16,682	△12,034
四半期利益	25,845	19,317
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	18,666	16,288
非支配持分	7,179	3,029
合計	25,845	19,317
1 株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	9	60.44
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	9	60.44

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益		121,891	58,143
その他の包括利益			
純損益に振替えられることのない項目			
確定給付制度の再測定		14	△486
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	7	△26,113	38,953
持分法適用会社のその他の包括利益持分		△440	21
合計		△26,539	38,489
純損益に振替えられる可能性のある項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	7	△119	24
キャッシュ・フロー・ヘッジ		109	328
在外営業活動体の換算差額		△8,517	△8,583
持分法適用会社のその他の包括利益持分		97	826
合計		△8,428	△7,404
その他の包括利益合計		△34,968	31,085
四半期包括利益		86,923	89,228
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		51,322	80,198
非支配持分		35,601	9,030
合計		86,923	89,228

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
四半期利益	25,845	19,317
その他の包括利益		
純損益に振替えられることのない項目		
確定給付制度の再測定	8	△338
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	△40,006	17,020
持分法適用会社のその他の包括利益持分	△431	37
合計	△40,428	16,718
純損益に振替えられる可能性のある項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	△51	△266
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△206	255
在外営業活動体の換算差額	△11,924	17,126
持分法適用会社のその他の包括利益持分	△827	490
合計	△13,010	17,606
その他の包括利益合計	△53,439	34,324
四半期包括利益	△27,593	53,642
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△30,485	44,825
非支配持分	2,892	8,817
合計	△27,593	53,642

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

注記	親会社の所有者に帰属する持分							
	資本金	資本剰余金	自己株式	確定給付 制度の 再測定	その他の資本の構成要素			合計
					その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産の 純変動	キャッシュ ・フロー ・ヘッジ	在外営業 活動体の 換算差額	
2018年4月1日残高	45,049	71,826	△115,835	—	193,212	△1,429	△43,908	147,874
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	△7	△26,359	110	△5,639	△31,896
四半期包括利益	—	—	—	△7	△26,359	110	△5,639	△31,896
自己株式の取得	—	—	△8	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	0	0	—	—	—	—	—
剰余金の配当	8	—	—	—	—	—	—	—
連結範囲の変動	—	—	—	—	—	—	—	—
支配継続子会社に対する 持分変動	—	△1,964	—	—	—	—	—	—
利益剰余金への振替	—	—	—	7	△333	—	—	△325
所有者との取引額合計	—	△1,964	△7	7	△333	—	—	△325
2018年12月31日残高	45,049	69,861	△115,842	—	166,519	△1,318	△49,548	115,652

注記	親会社の所有者に帰属する持分		非支配持分	資本合計
	利益剰余金	合計		
2018年4月1日残高	1,161,260	1,310,176	492,952	1,803,129
四半期利益	83,218	83,218	38,673	121,891
その他の包括利益	—	△31,896	△3,071	△34,968
四半期包括利益	83,218	51,322	35,601	86,923
自己株式の取得	—	△8	—	△8
自己株式の処分	—	1	0	1
剰余金の配当	8	△40,423	△20,880	△61,303
連結範囲の変動	—	—	3,413	3,413
支配継続子会社に対する 持分変動	—	△1,964	4,271	2,306
利益剰余金への振替	—	325	—	—
所有者との取引額合計	—	△40,097	△13,195	△55,590
2018年12月31日残高	1,204,381	1,319,102	515,359	1,834,461

親会社の所有者に帰属する持分								
注記	資本金	資本剰余金	自己株式	確定給付 制度の 再測定	その他の資本の構成要素			合計
					その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産の 純変動	キャッシュ ・フロー ・ヘッジ	在外営業 活動体の 換算差額	
2019年4月1日残高	45,049	70,043	△115,844	—	167,551	△1,249	△44,872	121,429
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	401	38,671	327	△5,873	33,526
四半期包括利益	—	—	—	401	38,671	327	△5,873	33,526
自己株式の取得	—	—	△4	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	△19	77	—	—	—	—	—
剰余金の配当	8	—	—	—	—	—	—	—
支配継続子会社に対する 持分変動	—	△2,954	—	△25	—	—	1,157	1,131
利益剰余金への振替	—	—	—	△375	△248	—	—	△623
所有者との取引額合計	—	△2,973	73	△401	△248	—	1,157	507
2019年12月31日残高	45,049	67,070	△115,770	—	205,975	△921	△49,589	155,463

親会社の所有者に帰属する持分					
注記	利益剰余金		合計	非支配持分	資本合計
	利益剰余金	合計			
2019年4月1日残高	1,226,224	1,346,902	526,725	1,873,627	
四半期利益	46,671	46,671	11,471	58,143	
その他の包括利益	—	33,526	△2,441	31,085	
四半期包括利益	46,671	80,198	9,030	89,228	
自己株式の取得	—	△4	—	△4	
自己株式の処分	—	58	2	61	
剰余金の配当	8	△40,424	△10,715	△51,139	
支配継続子会社に対する 持分変動	—	△1,822	8,551	6,728	
利益剰余金への振替	623	—	—	—	
所有者との取引額合計	△39,800	△42,192	△2,161	△44,354	
2019年12月31日残高	1,233,095	1,384,908	533,593	1,918,502	

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益		174,756	85,815
減価償却費及び償却費		166,817	190,403
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		75,781	84,639
棚卸資産の増減額 (△は増加)		△52,207	△35,893
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		△5,649	△69,429
その他		△38,155	△5,149
小計		321,342	250,386
利息の受取額		1,758	2,440
配当金の受取額		16,294	14,779
利息の支払額		△5,070	△6,111
法人所得税の支払額		△75,202	△41,782
営業活動によるキャッシュ・フロー		259,123	219,712
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金等の増減額 (△は増加)		△33,000	22,269
有形固定資産の取得による支出		△259,114	△237,719
有形固定資産の売却による収入		4,947	4,166
無形資産の取得による支出		△7,927	△8,766
投資の取得による支出		△16,559	△4,109
投資の売却及び償還による収入		15,470	20,700
リース債権の回収による収入		11,698	10,755
その他		△1,719	△1,496
投資活動によるキャッシュ・フロー		△286,203	△194,199
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額 (△は減少)		△6,800	△7,937
長期借入れによる収入		86,193	103,997
長期借入金の返済による支出		△32,231	△17,062
社債の発行による収入	6	5,000	—
社債の償還による支出	6	△17	△10,000
リース負債の返済による支出		△9,974	△18,566
配当金の支払額	8	△40,464	△40,425
非支配持分への配当金の支払額		△20,873	△10,715
その他		2,375	7,118
財務活動によるキャッシュ・フロー		△16,793	6,408
現金及び現金同等物に係る換算差額		△5,102	△2,320
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		△48,976	29,600
現金及び現金同等物の期首残高		406,508	357,195
現金及び現金同等物の四半期末残高		357,532	386,796

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

アイシン精機株式会社（以下、「当社」という。）は日本に所在する株式会社です。当社の登記している本社及び主要な事業所の所在地は、ホームページ（<https://www.aisin.co.jp/>）で開示しています。

当社の要約四半期連結財務諸表は2019年12月31日を四半期連結会計期間末とし、当社及びその子会社、並びにその関連会社に対する持分（以下、「当社グループ」という。）により構成されています。当社グループの主要な事業は、自動車部品及び住生活・エネルギー関連機器の製造・販売です。

2. 作成の基礎

(1) 要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しています。

要約四半期連結財務諸表は2020年2月13日に取締役社長伊勢清貴によって承認されています。

(2) 測定的基础

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「3. 重要な会計方針」に記載のとおり、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切捨てて表示しています。

(4) 重要な会計上の判断、見積り及び仮定

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っています。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しています。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した会計期間及び将来の会計期間において認識しています。

要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える会計上の判断、見積り及び仮定は前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様です。

(5) 表示方法の変更

（要約四半期連結財政状態計算書）

前連結会計年度において、流動負債及び非流動負債の「その他の金融負債」に含めて表示していた「リース負債」は、重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より独立掲記しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度連結財務諸表の表示方法の変更を行っています。

この結果、前連結会計年度の連結財政状態計算書において、流動負債の「その他の金融負債」38,416百万円は「リース負債」8,031百万円、「その他の金融負債」30,385百万円として、非流動負債の「その他の金融負債」9,212百万円は「リース負債」4,131百万円、「その他の金融負債」5,081百万円として表示組替を行っています。

3. 重要な会計方針

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、年間の見積実効税率に基づいて算定しています。

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」（2016年1月公表）（以下、「IFRS第16号」という。）を適用しています。

IFRS第16号の適用に伴い、当社グループは、契約の締結時に契約がリースであるか、又はリースを含んでいるかどうかをIFRS第16号に基づき判断しています。

契約がリースであるか、又はリースを含んでいると判定した場合、リース期間が12ヶ月以内のリース及び原資産が少額であるリースを除いたすべてのリースについて、単一の会計モデルを適用し、リース開始日に原資産を使用する権利を表す使用権資産とリース料を支払う義務を表すリース負債をそれぞれ認識しています。

リース負債はリース開始日における未決済のリース料を借手の追加借入利率を使って割引いた割引現在価値で当初測定しています。開始日後は、リース負債に係る金利や、支払われたリース料を反映するようにリース負債の帳簿価額を増減しています。また、リースの条件変更が行われた場合には、リース負債を再測定しています。

使用権資産はリース負債の当初測定額に当初直接コスト、前払リース料等を調整した金額で当初測定しています。開始日後は、リース開始日から使用権資産の耐用年数又はリース期間のいずれか短い期間にわたり規則的に償却しています。

なお、リース期間が12ヶ月以内のリース及び原資産が少額であるリースについては、リース料をリース期間にわたり定額法により費用として認識しています。

IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、適用開始による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。適用開始日に認識したリース負債に適用した借手の追加借入利率の加重平均は、2.0%です。また、適用にあたっては、以下の実務上の便法を適用しています。

- ・特性が合理的に類似したリースのポートフォリオに単一の割引率を適用する
- ・当初直接コストを適用開始日現在の使用権資産の測定から除外する

IFRS第16号への移行により、適用開始日において、連結財政状態計算書上、使用権資産39,957百万円を非流動資産の「使用権資産」に、リース負債39,958百万円を流動負債及び非流動負債の「リース負債」にそれぞれ追加的に認識しています。また、IAS第17号のもとでファイナンス・リースに分類していたリースについて、「有形固定資産」から「使用権資産」へ1,666百万円の表示組替を行っています。さらに、「その他の非流動資産」から「使用権資産」へ7,779百万円の表示組替を行っています。

4. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、当社及び中核となる国内子会社（以下、「中核子会社」という。）がグループを構成しており、取り扱う製品及びサービスについて、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

従って、当社グループは当社及び中核子会社を頂点とするグループを基礎とした製品及びサービス別のセグメントから構成されており、各報告セグメントの名称及び各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は以下のとおりです。

なお、2019年4月1日に、パワートレイン領域のリソース最適化をはかる目的で、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社とアイシン・エーアイ株式会社の経営統合を行っています。これに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、アイシン・エーアイ株式会社及びその子会社を「その他」から「アイシン・エイ・ダブリュグループ」へ修正再表示しています。

報告セグメント	主な製品及びサービス
アイシン精機グループ	自動車部品全般及び付随サービス、住生活・エネルギー関連、建設土木及び石油販売等
アイシン高丘グループ	主としてエンジン、ブレーキに関する铸造部品
アイシン・エイ・ダブリュグループ	主としてオートマチックトランスミッション、マニュアルトランスミッション及びカーナビゲーションシステム
アドヴィックスグループ	主としてブレーキ部品

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの会計方針は、「3. 重要な会計方針」で記載している当社グループの会計方針と同一です。

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	調整額	連結	
	アイシン 精機 グループ	アイシン 高丘 グループ	アイシン・ エイ・ ダブリュ グループ	アドヴィッ クス グループ	計				
売上収益									
外部顧客への 売上収益	1,107,735	142,637	1,310,518	441,674	3,002,565	10,833	—	3,013,398	
セグメント間の 内部売上収益	216,188	94,876	36,576	5,780	353,421	40,331	△393,752	—	
計	1,323,924	237,513	1,347,094	447,454	3,355,986	51,164	△393,752	3,013,398	
セグメント利益	45,558	9,780	98,265	6,879	160,483	2,200	△1,281	161,402	
金融収益									14,646
金融費用									△8,775
持分法による投資利益									7,482
税引前四半期利益									174,756

（注1） 「その他」の区分には、各報告セグメントに属さない自動車部品事業が含まれています。

（注2） セグメント間の内部売上収益は、市場価格、総原価を勘案し、価格交渉のうえ決定した取引価格に基づいています。

（注3） セグメント利益は、営業利益をベースとした数値です。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	調整額	連結	
	アイシン 精機 グループ	アイシン 高丘 グループ	アイシン・ エイ・ ダブリュ グループ	アドヴィッ クス グループ	計				
売上収益									
外部顧客への 売上収益	1,081,559	144,418	1,197,262	438,343	2,861,584	10,232	—	2,871,817	
セグメント間の 内部売上収益	198,119	93,659	25,594	4,879	322,253	39,880	△362,133	—	
計	1,279,678	238,078	1,222,857	443,223	3,183,837	50,112	△362,133	2,871,817	
セグメント利益	46,919	7,568	30,328	△8,648	76,168	1,775	△742	77,201	
金融収益									14,328
金融費用									△12,238
持分法による投資利益									6,523
税引前四半期利益									85,815

（注1） 「その他」の区分には、各報告セグメントに属さない自動車部品事業が含まれています。

（注2） セグメント間の内部売上収益は、市場価格、総原価を勘案し、価格交渉のうえ決定した取引価格に基づいています。

（注3） セグメント利益は、営業利益をベースとした数値です。

前第3四半期連結会計期間（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	調整額	連結	
	アイシン 精機 グループ	アイシン 高丘 グループ	アイシン・ エイ・ ダブリュ グループ	アドヴィッ クス グループ	計				
売上収益									
外部顧客への 売上収益	375,836	47,818	438,493	153,086	1,015,234	3,694	—	1,018,928	
セグメント間の 内部売上収益	74,384	31,656	11,138	1,757	118,936	13,804	△132,741	—	
計	450,220	79,475	449,631	154,843	1,134,170	17,499	△132,741	1,018,928	
セグメント利益	14,826	3,976	20,810	△1,712	37,900	682	△462	38,120	
金融収益									6,985
金融費用									△4,717
持分法による投資利益									2,138
税引前四半期利益									42,527

（注1） 「その他」の区分には、各報告セグメントに属さない自動車部品事業が含まれています。

（注2） セグメント間の内部売上収益は、市場価格、総原価を勘案し、価格交渉のうえ決定した取引価格に基づいています。

（注3） セグメント利益は、営業利益をベースとした数値です。

当第3四半期連結会計期間（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	調整額	連結	
	アイシン 精機 グループ	アイシン 高丘 グループ	アイシン・ エイ・ ダブリュ グループ	アドヴィッ クス グループ	計				
売上収益									
外部顧客への 売上収益	351,568	45,840	412,994	144,296	954,700	3,351	—	958,051	
セグメント間の 内部売上収益	66,745	30,387	7,660	1,655	106,448	12,801	△119,249	—	
計	418,314	76,227	420,655	145,951	1,061,148	16,152	△119,249	958,051	
セグメント利益	16,778	2,492	12,285	△7,939	23,616	431	△318	23,728	
金融収益									6,011
金融費用									△306
持分法による投資利益									1,918
税引前四半期利益									31,352

（注1） 「その他」の区分には、各報告セグメントに属さない自動車部品事業が含まれています。

（注2） セグメント間の内部売上収益は、市場価格、総原価を勘案し、価格交渉のうえ決定した取引価格に基づいています。

（注3） セグメント利益は、営業利益をベースとした数値です。

5. 売上収益

当社グループは自動車部品の製造・販売を主たる事業としています。

当社グループは「4. セグメント情報」で記載のとおり、当社及び中核となる国内子会社が構成するグループを報告セグメントとしています。また、売上収益を報告セグメント毎に拠点の所在地に基づいて国又は地域別に分解しています。ただし、自動車部品以外の外部顧客への売上収益は要約四半期連結損益計算書に与える影響が小さいため、売上収益を製品又はサービスの種類別に分解していません。

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	合計
	アイシン精機グループ	アイシン高丘グループ	アイシン・エイ・ダブリュグループ	アドヴィックスグループ		
日本	608,047	65,842	845,497	231,118	10,086	1,760,592
北米	243,962	13,532	87,221	90,662	—	435,378
欧州	28,071	—	218,421	3,664	—	250,157
中国	139,457	4,757	110,258	52,128	169	306,771
アジア・その他	88,196	58,504	49,119	64,100	576	260,498
合計	1,107,735	142,637	1,310,518	441,674	10,833	3,013,398
顧客との契約から認識した収益	1,096,786	142,589	1,308,797	441,329	10,833	3,000,337
その他の源泉から認識した収益	10,948	47	1,720	344	—	13,061

（注1） 外部顧客への売上収益で表示しています。

（注2） その他の源泉から認識した収益には、IAS第17号に基づくリース料収入等が含まれています。また、その他の源泉から認識した収益は主として日本で発生しています。

（注3） 2019年4月1日に、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社とアイシン・エーアイ株式会社の経営統合を行っています。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の情報は、アイシン・エーアイ株式会社及びその子会社を「その他」から「アイシン・エイ・ダブリュグループ」へ修正再表示しています。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	合計
	アイシン精機グループ	アイシン高丘グループ	アイシン・エイ・ダブリュグループ	アドヴィックスグループ		
日本	615,393	68,496	720,386	241,753	9,453	1,655,482
北米	247,664	16,975	99,593	78,485	—	442,719
欧州	26,569	—	234,418	3,420	—	264,409
中国	104,725	6,272	96,909	53,363	188	261,459
アジア・その他	87,205	52,675	45,953	61,320	591	247,746
合計	1,081,559	144,418	1,197,262	438,343	10,232	2,871,817
顧客との契約から認識した収益	1,078,202	144,371	1,193,676	438,155	10,232	2,864,637
その他の源泉から認識した収益	3,356	47	3,586	188	—	7,179

（注1） 外部顧客への売上収益で表示しています。

（注2） その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号に基づくリース料収入等が含まれています。また、その他の源泉から認識した収益は主として日本で発生しています。

6. 社債

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

前第3四半期連結累計期間において、第1回無担保普通社債（社債間限定同順位特約付及び適格機関投資家限定）5,000百万円（利率0.100%、償還期限2023年10月2日）を発行しています。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

当第3四半期連結累計期間において、第11回無担保普通社債10,000百万円（利率1.63%、償還期限2019年7月23日）を償還しています。

7. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値ヒエラルキー

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりです。

レベル1：活発な市場における公表価格により測定した公正価値

レベル2：レベル1以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを使用して測定した公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法を用いて測定した公正価値

(2) 公正価値の測定方法

① 現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務

短期間で決済されるため、公正価値と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額によっています。

② 社債及び借入金

社債は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものはその将来キャッシュ・フローを新規に同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しています。

短期借入金は、短期間で返済されるため、公正価値と帳簿価額が近似していることから、当該帳簿価額によっています。

長期借入金は、将来キャッシュ・フローを新規に同様の借入れを行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しています。

③ その他の金融資産、その他の金融負債

上場株式は、報告期間の末日の市場価格によって算定しています。

非上場株式及び出資金は、類似会社の市場価格に基づく評価技法、純資産に基づく評価技法等適切な評価技法を用いて測定した価格により算定しています。なお、観察不能なインプットである非流動性ディスカウントは30%としています。これらの公正価値の測定は社内規程等に従い投資部門より独立した管理部門が実施しており、当該測定結果について適切な権限者が承認しています。

債券は、取引所の価格又は取引金融機関から提供された価格により算定しています。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は、取引金融機関から提供された価格により算定しています。

(3) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定する金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第3四半期 連結会計期間 (2019年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
社債	131,999	133,448	121,999	122,853
借入金	478,342	483,209	555,201	558,264

(注) 償却原価で測定する金融商品の公正価値ヒエラルキーはレベル2です。

(4) 公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定する金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりです。

前連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
公正価値で測定する金融資産				
株式	346,017	—	51,939	397,957
出資金	—	—	4,101	4,101
債券	—	89,506	—	89,506
デリバティブ資産	—	4,237	—	4,237
合計	346,017	93,744	56,040	495,802
公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	6,038	—	6,038
合計	—	6,038	—	6,038

（注） 前連結会計年度において、レベル間の重要な振替えが行われた金融商品はありません。

当第3四半期連結会計期間（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
公正価値で測定する金融資産				
株式	402,925	—	49,139	452,064
出資金	—	—	4,248	4,248
債券	—	64,113	—	64,113
デリバティブ資産	—	4,347	—	4,347
合計	402,925	68,460	53,388	524,774
公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	5,517	—	5,517
合計	—	5,517	—	5,517

（注） 当第3四半期連結会計期間において、レベル間の重要な振替えが行われた金融商品はありません。

レベル3に分類した金融商品の期首残高から期末残高への調整表は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
期首残高	51,821	56,040
取得	308	351
その他の包括利益(注)	1,603	△1,369
処分	△0	△1,622
その他	32	△11
期末残高	53,765	53,388

(注) その他の包括利益は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものであり、要約四半期連結包括利益計算書上、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動に含めています。

8. 配当

配当金の支払額は以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月19日 定時株主総会	普通株式	24,254	90	2018年3月31日	2018年6月20日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	16,169	60	2018年9月30日	2018年11月27日

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月18日 定時株主総会	普通株式	24,253	90	2019年3月31日	2019年6月19日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	16,170	60	2019年9月30日	2019年11月26日

9. 1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	83,218	46,671
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	83,218	46,671
期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,499
基本的1株当たり四半期利益 (円)	308.80	173.18
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	83,218	46,671
四半期利益調整額 (百万円)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	83,218	46,671
期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,499
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数 (千株)	—	—
希薄化後期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,499
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	308.80	173.18

	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	18,666	16,288
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	18,666	16,288
期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,504
基本的1株当たり四半期利益 (円)	69.27	60.44
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	18,666	16,288
四半期利益調整額 (百万円)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	18,666	16,288
期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,504
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数 (千株)	—	—
希薄化後期中平均普通株式数 (千株)	269,489	269,504
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	69.27	60.44

10. 関連当事者取引

当社グループと関連当事者との取引は以下のとおりです。

関連当事者との取引条件については、市場価格、総原価を勘案して希望価格を提示し、毎期価格交渉のうえ決定しています。

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

種類	会社等の名称	取引内容	取引金額
重要な影響力を有する企業	トヨタ自動車(株)グループ	自動車部品等の販売	1,495,994

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

種類	会社等の名称	取引内容	取引金額
重要な影響力を有する企業	トヨタ自動車(株)グループ	自動車部品等の販売	1,553,900

11. 後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当に関する取締役会決議は次のとおりです。

決議年月日 2019年10月31日（中間配当支払開始日 2019年11月26日）

中間配当金の総額 16,170百万円

1株当たりの中間配当額 60円

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

アイシン精機株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 真美

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山中 鋭一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西村 智洋

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 正英

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアイシン精機株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、アイシン精機株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月13日
【会社名】	アイシン精機株式会社
【英訳名】	AISIN SEIKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 伊勢 清貴
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄3丁目8番20号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長伊勢清貴は、当社の第97期第3四半期（2019年10月1日から2019年12月31日まで）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。